## 常若の聖地、伊勢神宮 文筆家 千種清美

皇學館大學非常勤講師。実践女子大学卒業後、NHK 津放送局アシスタント、三重の地域誌『伊勢志摩』編集長を経て文筆業に。新幹線車内誌『月刊ひととき』に平成18年から「伊勢、永遠の聖地」を連載中。伊勢神宮の式年遷宮について取材を行う。近著に『伊勢神宮 常若の聖地』(ウェッジ)。式年遷宮特別番組『お伊勢さん』(三重テレビ放送制作)全10本の脚本担当。三重県観光審議会委員ほか。



今年10月、伊勢神宮で20年に一度の式年遷宮が行われる。

いったい、この式年遷宮とはどういうものなのか、どうして行われるのか、なぜ 20 年に一度なのか、飛鳥時代から 1300 年にわたり続いてきたお祭りが注目を浴びている。

伊勢神宮は、皇室の祖先につながる皇祖神であり、日本の総氏神である天照大神を祀る内宮と、食を司る豊受大神を祀る外宮を中心にした 125 もの宮社の総称である。この 10 月には 125 社のうちの、内宮と外宮、それに別宮の荒祭。宮と多賀宮の式年遷宮が行われるのである。

式年遷宮というのは、定まった周期(式年)で、神を祀る社殿を修繕造営するために、御神体を遷すこと。 遷座ともいう。実は全国各地の神社でも行われていることだ。今年5月には島根県の出雲大社で60年ぶり の遷宮が行われた。本殿の檜皮葺き屋根を全面的に葺き替えるため、御神体を一時拝殿に遷していたが、 工事の完成とともに本殿に再び遷された。

伊勢神宮の場合は、こうした遷宮ではない。社殿が建つ敷地が東西に隣り合い2つある。現在参拝する 社殿は東の敷地に建つ。今度は西の敷地に新しい社殿が造営中だ。遷宮のたびに隣の敷地に同じ形をした 社殿が新しく建てられるのである。社殿の老朽や損傷による修繕ではないのである。

このような式年遷宮は、今から 1300 年前の飛鳥時代に天武天皇によって発案され、次の持統天皇の時代に第 1 回が行われた。内宮が 690 年、外宮が 692 年である。709 年の第 2 回のころには古事記が編纂され、平城京の遷都が行われていた。当時は大陸からの最新の文化や技術が日本に入って来ており、すでに法隆寺や大極殿といった巨大な建物を建てる技術もあった。しかし、伊勢神宮の社殿は、柱を地面に直接埋める掘立柱形式をとり、屋根は瓦ではなく、植物の萱で葺く萱萱屋根である。彩色や彫刻も施されず素木の素朴な形は、古代の穀物を納める穀倉の形をもとにしているといわれる。古代の人々は、皇祖神を祀る社殿に穀倉の形を選んだのである。そこには、神話が息づく。天孫降臨の際、天照大神は孫の瓊瓊杵尊に三種の神器と稲穂を授け、地上界を豊かにするようにおっしゃられたと伝わる。日本人は、稲作は神から授かったとしたため、天照大神の社殿が穀倉の形をしているわけである。

西欧ならば、皇祖神という最高の神を祀る神殿ならば、おそらく石造の堅牢な建物を建てたに違いないが、日本ではどちらかというと耐久性には劣る木造の素朴な社殿が建てられた。けれど、20年に一度の遷宮で同じ形の社殿の建て替えを繰り返すことのよって、古代の形をした真新しい社殿が現代に存在するのである。古い形をした古い建物でもなく、新しい形をした新しい建物でもない、古い形をした新しい建物なのだ。繰り返すことによって、古代の形を伝えてきたのである。日本における継続のシステムがここにある。

また、20年という周期については、木造建築の耐久性、伝統技術の伝承など諸説あるが、その根底には「常若」という神道の考え方があるのではないかと言われている。

「常若」は常に若々しい、瑞々しいという意味で、古びる前に社殿を新しく建て替えるのは、常に瑞々しい社殿に神をお祀りし、その大いなる力で私たちを守ってもらおうという考えである。私たちでも新築の家はもちろん、引越ししたりすることで気持ちも新たになる。住まいだけでなく、身に着けるものを新しくするだけでも気分は高まるものだ。そうした新しいものがもつ清浄感がもたらす効果である。

さらに、式年遷宮の場合は、20 年先も、その 20 年先も新しくなるため、常に未来が予想できることになる。1300 年という過去と、この先の未来が伊勢神宮には式年遷宮というお祭りによって考えられるのである。

人間にとって最も力がでないときというのは明日が見えない、未来がわからないときではないだろうか。 20年に一度の式年遷宮を1300年にわたり継続してきた常若の聖地、伊勢神宮には、それを打ち破るヒントがある。私たち日本人は、常に新しい社殿に参拝し、知らずに常若の力をいただいてきたのではないだろうか。「お伊勢参り」は昔も今も私たちを魅了してやまない。



前回の平成5年の式年遷宮の際の空撮。 2つの敷地に新旧の同じ形をした社殿が建ち並ぶ。写真提供:神宮司庁



内宮御稲御倉は、祭典で神前に供える米を納める現役の穀倉。 御正殿の「唯一神明造」の特徴をよく表している